

## 思うこと

会長 須田和夫

戦後っ子と呼ばれながらぬくぬく育った私も間もなく八十路を迎えるまでになりました。世界でも名だたる長寿国の仲間入りでその一員なれることの幸せをかみしめるこの頃です。

あらためて振り返りますと、日本中が食糧難に飢えていた頃も“ミソ付けママ”（味噌おにぎり）をおやつ代わりに腹いっぱい食べて育ちました。ある面で、農家が一番ゆとりのあった時代というべきなのかもしれない。但し、大人たちは朝早くから晩まで体にムチ打って働き詰めの苦難の時代であったと思います。それから経済の急速な発達とともに日本中にモノは豊かになり、世界中から集められた物資が日本中に溢れるほどに行き渡るようになりました。今度は有り余って食品ロスとして廃棄されるまでになり、豊かさゆえの負の現象が現れ今も続いております。

自然を壊しながら植えられた里山の杉林も荒れ放題で60年、70年経過した杉は放置されております。鳥海山にも放置された杉林が存在し、国中で災害の一因にもなっております。広葉樹林に転換するにはなかなか難題であります。“森が消えれば海も死ぬ”と水産学者のお話を伺って歩んできた当会も近くの海浜に打ち上げられた大量の廃棄物目を覆うばかりです。止まることなく積み重ねられていきます。ここにも繁栄の負の影が現れております。方策を探るべきです。無力さを痛感します。

先日、ノーベル平和賞受賞し帰国した日本被団協代表委員の田中熙巳さんには強烈な衝撃を受けました。卒寿を超えてもなお自らの体験を通して世界中にメッセージを送り続ける情熱には驚くばかりです。また若い世代の高校生とともに発信し続ける姿は何とも偉大で羨ましい限りです。

負けずに“ドッコイショ”と力んで地団駄踏んでもふら付くこの頃の私です。

## 2025年度総会のお知らせ

鳥海山にブナを植える会  
会長 須田和夫

日時：2025年(令和7年) 2月9日(日) 午後1時より

場所：にかほ市象潟町 象潟公民館 2F 大ホール

- 議題：① 2024年度事業報告並びに決算報告  
② 2025年度事業計画案並びに予算案  
③ 役員改選  
④ その他

交流会：総会後の交流会は“中止”といたします

※当会の今後の在りかたについて話し合う会議です。広く多くの会員の声をお聞きしたいと思っております。日程調整のうえ、ぜひご参加下さい。

## 鳥海山にブナを植える会 設立 30 周年記念事業・植樹会 報告

2024年9月7日（土）象潟公民館大ホールにおいて、鳥海山にブナを植える会設立30周年の記念行事が開催されました。会場には酒田市の齋藤政広氏の「ブナの声 2024」写真展も併催。参加者は70名。

- 式典に先立ち、「マグマがつくった鳥海山の自然—火山地形と雪の恵みと」と題して、秋田大学名誉教授・林信太郎氏による講演がありました。講演では、鳥海山の歴史、55万年前から何度も噴火して溶岩を噴出してできたこと、その中から古期鳥海山を発見したこと、溶岩地形はデコボコだとお話され、ココアとコンデンスミルクを使った「溶岩地形」を作るミニ実験に参加者は全員見入っていました。



講演での林信太郎先生



ココアとコンデンスミルクを使って溶岩地形をつくってみようの実験。「上手くやるのはむずかしい」と

- 記念式典では、にかほ市市長市川雄次様、由利地域振興局局长川村潤様から祝辞をいただきました。また、当会の活動に長く協力いただきました7団体に感謝状の贈呈式が行われました。
- 記念式典終了後、さんねむ温泉に移動し、横山祥子氏による二胡演奏会と祝賀会が行われました。二胡は驚くほど表現力が豊かで、限りなく多様な音色を奏でます。二胡は人の声に最も似た音の出る楽器といい、喜び、悲しみ、優雅さ、優しさを感じさせてくれます。祝賀会に参加された皆さんは、その独特な音色と心を震わすメロディに酔いしれていました。



横山祥子さんの二胡演奏には参加者全員が聞き入りました。祝賀会はなごやかに、思い出話、苦勞話に花が咲いていました。

### < 第 30 回 記念植樹会 >

2024年10月19日（土）朝から強い雨と風が吹く中、鳥海山二合目の旧クリ園で第30回記念植樹会が行われました。当会の苗圃で育てたブナの苗木300本を植えました。県内外から47名が参加。今回は大阪市からバイクを走らせて来られた和田友則さんが当会と象潟小学校5年生の植樹会にも参加され、ティラノサウルスの着ぐるみバルーンを着て参加者を驚かせてくれたので、みんな大喜びでした。



ティラノも参加しての記念の植樹。植え終わるころによくやく小止みになって30周年を祝ってくれました。



## < 2024 年度 他の団体とも協力して行った植樹の実績と これまでの累計 >

毎年、鳥海山にブナを植える会と協力して植樹をしています。

① 象潟小学校 5 年生	10 月 17 日(木)	50 本 (46+3 名)
② TDK株式会社	10 月 19 日(土)	悪天候のため中止
③ 鳥海山にブナを植える会	10 月 19 日(土)	300 本 (47 名)
④ 崇教眞光	10 月 20 日(日)	150 本 (30 名)
⑤ 仁賀保高校 1 年生	10 月 24 日(木)	115 本 (33+7 名)

2024 年度植樹合計  
615 本  
これまでの植樹累計  
48,489 本

### 2024 年度 象潟小学校 ブナの学習会・植林体験の 感想文より

10 月 17 日 (木) 前日の雨も上がって穏やかな晴れの中、象潟小学校 5 年生 46 名 (+3 名) が、鳥海山二合目の本郷旧クリ園にブナの苗木 50 本の植樹を行いました。

生徒たちは、使ったことのないスコップやクワで穴を掘るのに大苦戦。そこに大阪から参加した和田さんがティラノサウルスの着ぐるみバルーンを来て現われたので、みんな大喜び。そして協力して苗を植えました。

植樹に先立って、朝に学校の多目的ホールで広報部の横山隆一と総務部の茂野正信さんが学習会をしました。



ティラノサウルスが現われたと大騒ぎ

◆土井 柚希奈 さん ブナを植える会のみなさんへ ブナを植える前に教えてもらって分かったことは、ブナは 200~300 年生きること初めて知りました。ブナを植えて思ったことは、植える前、土をほる時少し大変でした。でもいろんな人が教えてくれたおかげで植えることができました。ブナを植える会のみなさん、ありがとうございました。

◆横山 心之介 さん ブナの植樹を教えてくださいましたみなさんへ いそがしい中教えてくださってありがとうございました。この植樹をして思ったことは、最後の感想でも言ったように、ブナにどんなことがあり、それをもどそうとするための大変さやむずかしさ分かりました。「一人の力はびりよくだけれど無力ではない」この言葉に心を打たれました。これからは自然との関わり方を考えてできることはやって生活していきたいです。ありがとうございました。

◆朝倉 凜 さん ブナを植える会のみなさんへ わたしは今日、いろいろなことを学びました。事前学習では生き物の大切さを知って、植樹ではブナや木の植え方を知りました。わたしはこれからゴミ拾いをしたりして、生き物や植物を大切にしたいと思いました。大人になったら見に行きたいです。

◆青木 柊真 さん ブナを植える会のみなさんへ ブナの事前学習会で分かったことは、昔はたくさんブナがあったのに、今は 3 分の 1 しかないことが分かりました。ブナの植樹をして思ったことは、植えるだけでも大変なのに、まだやることあるんだなと思いました。これからは、これからもブナを植えて地球温暖化が進まないようにしたいです。

### 2024 年度 仁賀保高校 ブナの学習会・植林体験の 感想文より

10 月 24 日 (木) 前日から続く爽やかな晴れ。この時期にしては暖かい日でした。鳥海山二合目近くの元クリ園に、仁賀保高校 1 年生 33 名 (校長先生も参加して+7 名) によるブナの植樹会が行われました。当日朝には、広報部の横山隆一が「鳥海山にブナの森の復活を」と題して講演。総務部長の茂野正信さんが「ブナ植林の手引き」の説明を行いました。

その後、バスで鳥海山二合目近くの旧クリ園に移動し、ブナの苗木 115 本を植樹しました。



---

◆小笠原 寧々 さん 今回のブナ植林で友達と協力して木を植えることができました。昔、森の中のブナの木は人間の都合で切られてしまい、三分の一しか残らなかったと聞いて驚きました。木は人間や動物、生き物が生活していく上で必要不可欠なもので有り、守っていくべきものだと思うので、今回とても貴重な体験ができてうれしかったです。また、講演を聴いてブナの木について詳しく知ることができました。生き物の生態を守っていくために、私は、水を節約したり、レジ袋をなるべく買わないように心がけて生活していきたいと思いました。

---

◆富樫 七海 さん 私が講演を聴く中で関心を持ったのが地球温暖化についてです。何年も前から「異常気象」という言葉や「気温上昇」という言葉を聞いてきました。でも、実際には地球にどんな風に影響しているかなんて分からなくて他人事のように思っていました。けれど、講演を聴いて、気温上昇2度になってしまうと、取り戻すことが不可能になるということが分かって驚いたのと同時に焦りがありました。今の地球は1.5度上昇しているのに、あと0.5度気温が上昇してしまったら、今後の地球はどうになってしまうかと不安になりました。でも、ブナの木を植えたり、自分たちの少しの行動の積み重ねで、10年後、20年後の地球が変わっていくと思ったら、少しでも今の自然が変わっていくと思ったら、自然の生き物たちを、今のまま変わらないように大切にしていかないと、と思いました。ブナの植林は、想像していたより体力が必要で、1本植えるだけでも大変だと感じました。けれど、楽しい、面白いと思って植林することもできました。小学生の時と今回で2回行ったけど、2回で終わるんじゃなく、この先も続けていきたいと思えます。

---

◆渡辺 彩月 さん 講演を聴いて、ブナについて詳しく知ることができました。昔、ブナが沢山伐られていたことを知りましたが、ブナの持つ役割を見つけられ、今では沢山植林されていてとても良かったです。ですが、まだブナの本数は少ないということで、私にできることがあったら、微力ながらもお手伝いをさせていただきたいと思いました。また、実際に植林をしてみて思ったのが、かなり体力がいるということです。土を掘るのですから大変で、根っこなどが突っ掛かり、中々掘ることができませんでした。ブナを植えた後土をかけるのですが、土をかけるのも大変で、土が足りなかったりして、植林するのは難しいことだと体験して分かりました。

---

◆増村 圭剛 さん 私は、今日の講演と植林でいろいろなことが分かりました。講演では、「今の地球がどうなっているか」や「このままの状態で時代が進んだら」などの皆が知ってはいるけれど、そこまで深くは分からないような話題が沢山あり、とても興味が湧きました。特に、人の1年分の呼吸量をブナの本数で表すところはとても分かりやすかったです。植林では、ブナの木を植えるときのコツなどをたくさん教えてもらい、とても助かり、やる気がぐんぐんと出てきました。教えてもらうときも優しく教えてくれて、これからのにかほ市や地球を、僕もこんな風に支えていきたいと思うことができました。講演を聴いて、実際に植えることもできてとても良い体験になりました。

---

## <報告>

### ① タイムカプセルについて

2009年(平成21年)10月24日、鳥海山にブナを植える会設立15周年の記念に埋めたタイムカプセルを30周年記念式典でお披露目するべく掘り上げ、開封しました。その結果、入れ物の壺は完璧でしたが、会員の資料は15年間の湿気で紙が傷んだりインクが滲んだりして、文字が判読できませんでした。同封した当日の新聞は紙の材質やインクが良いためか読むことができました。また、判読できた一部の資料については30周年記念誌に掲載させていただきました。

### ② 社会貢献者表彰受賞について

2024年12月2日、社会の各分野において、社会と人々のために尽くした個人や団体に対して贈られる、公益財団法人・社会貢献支援財団主催の「社会貢献者表彰」を受賞しました。

### —編集後記—

「鳥海山にブナを植える会」の設立30周年記念事業も盛況のうちに幕を閉じました。たくさんのお祝いのメッセージをいただき、会員一同心を新たに31年目を迎えました。会報88号を編集していて、学習会でお話しさせてもらった地球温暖化や異常気象に関する感想が多くありました。話を聞き、感じていただいているんだなとうれしく思いました。植樹したブナが二酸化炭素を吸収し、酸素を供給する“温暖化防止の効果”が表れるまでには長い年月がかかります。鳥海山にブナの森が見られようになるまでには、あと何年かかるでしょう。 広報部 横山隆一